

作物統計調査 令和7年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量 (宮城)

令和7年産主食用米収穫量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は前年産に比べ1万9,700t増加。

- 1 令和7年産水稻の9月25日現在における生産者が使用しているふるい目幅ベースの予想収穫量（主食用）は34万900tで、前年産に比べ1万9,700t増加と見込まれる。

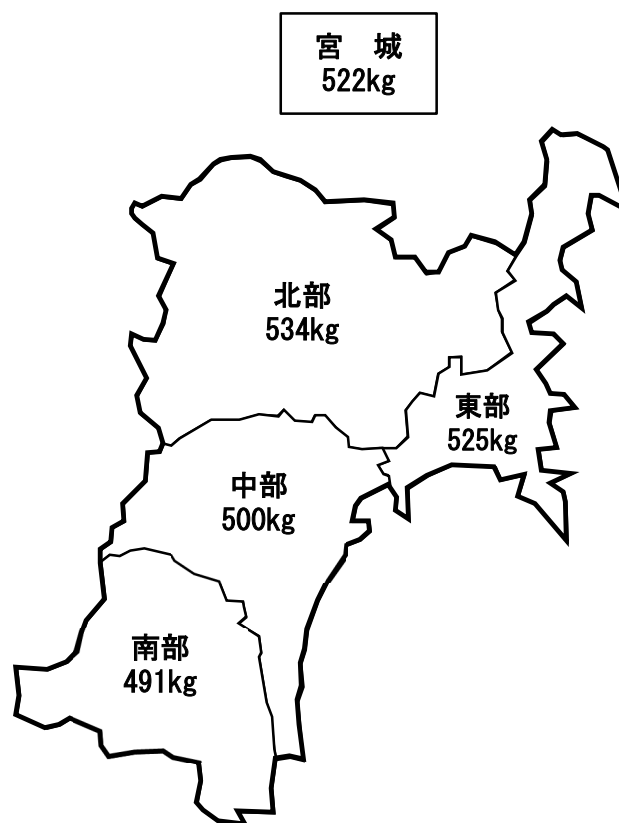
これは、9月25日現在における10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、田植後の低温により全もみ数が少ないとなったことから、前年産に比べ28kg減少の522kgと見込まれるものの、作付面積（主食用）が前年産に比べ6,900ha増加の6万5,300haと見込まれるためである。

- 2 作況単収指数は99と見込まれる。
各作柄表示地帯の作況単収指数は表のとおりである。

参考

令和7年産水稻の9月25日現在のふるい目幅1.70mmベースの予想収穫量（主食用）は36万3,100tで、前年産に比べ2万2,600t増加と見込まれる。

図 作柄表示地帯別10a当たり
予想収量（9月25日現在）
（生産者が使用しているふるい目幅ベース）



- 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である。
- 10a当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅（宮城県は1.90mm）で選別された玄米の重量である（令和7年産は予想）。
- 10a当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量である（令和7年産は予想）。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、収穫を終えた地域では刈取り実測による結果であるが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定した結果である。したがって、今後の気象条件等により変動することがある。
- 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10a当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く。）に対する10a当たり収量の比率である。

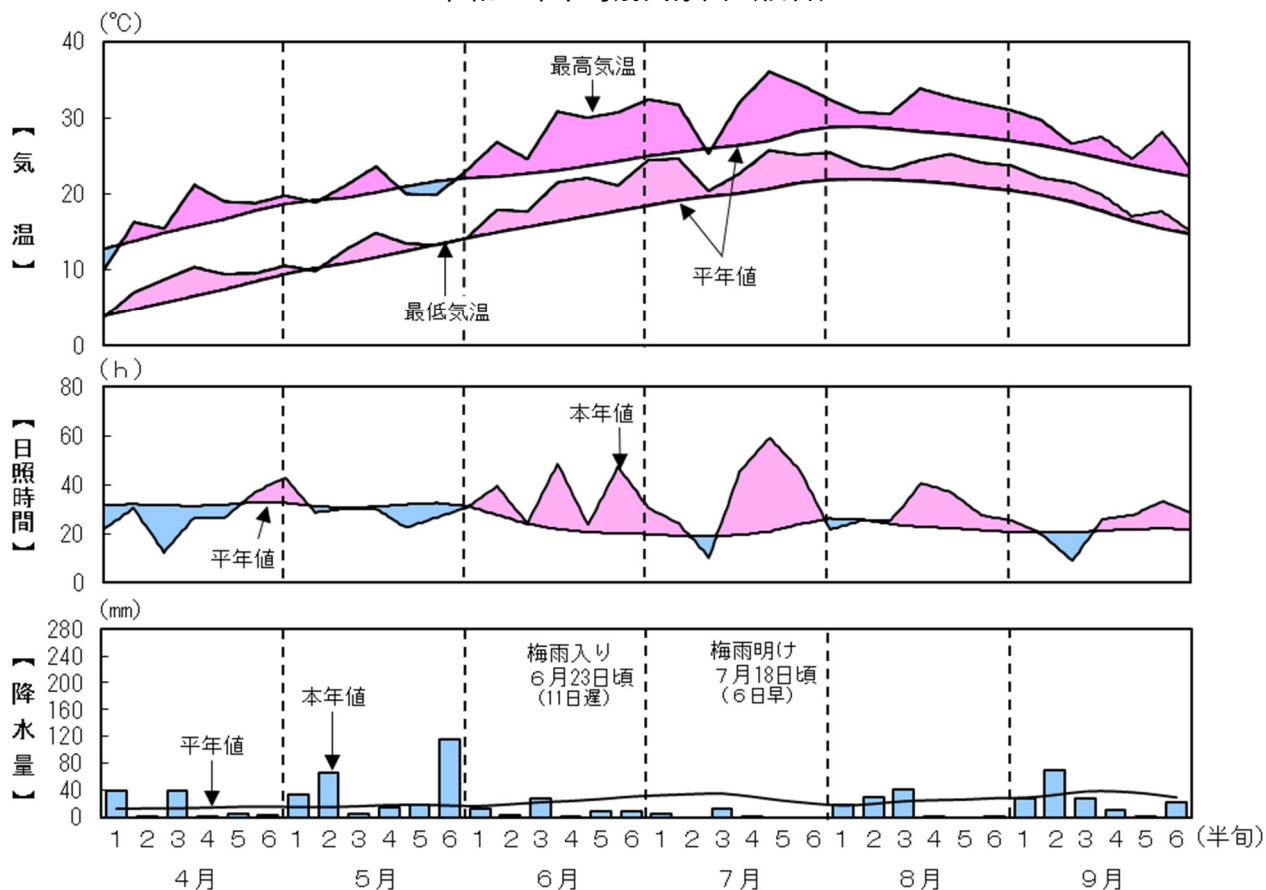
表 令和7年産水稻の10a当たり予想収量及び主な収量構成要素（9月25日現在）

区分		10 a 当たり予想収量				主な収量構成要素（前年比較）				作況単収 指数
		生産者が使用している ふるい目幅で選別		ふるい目幅1.70mm で選別		穂数の多少	1 穂当たり もみ数の 多 少	全もみ数 の 多 少	千もみ当 たり 収 量 の 多 少	
		実 数 ①	対前年比	実 数 ②	対前年比					
宮 城 南 部 中 部 北 部 東 部		kg	%	kg	%					
		522	95	556	95	少 な い	やや多い	少 な い	前年並み	99
		491	96	530	97	やや少ない	前年並み	やや少ない	前年並み	99
		500	95	535	95	やや少ない	前年並み	やや少ない	前年並み	99
		534	95	564	95	少 な い	やや多い	少 な い	前年並み	99
		525	95	568	96	少 な い	多 い	やや少ない	前年並み	99

注：1 ①10a当たり予想収量は、過去5か年に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（宮城県は1.90mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
2 ②10a当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
3 主な収量構成要素（前年比較）に用いた表示区分は、「多い」が106%以上、「やや多い」が105～102%、「前年並み」が101～99%、「やや少ない」が98～95%、「少ない」が94%以下に相当する。
4 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10a当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く。）に対する10a当たり収量の比率である。

【参 考】

令和7年半旬別気象図（仙台）



資料：気象庁ホームページ

注：（ ）内の日数の遅速は、対平年差である。

お問合せ先

東北農政局 統計部 統計調査担当
電話：022-745-9381（直通） 内線 4752